

令和3年度岩手県薬事審議会 会議録

1 日時

令和3年7月27日(火) 午前10時から午前11時まで

2 場所

岩手県公会堂 26号室

3 出席者

(1) 委員

畑澤 博巳 委員、橋本 健志 委員、大泉 志織 委員、尾形 由紀 委員、
磯田 朋子 委員、梶田 佐知子 委員、小澤 正吾 委員、本間 博 委員、
小田中 健策 委員、及川 吏智子 委員、宮野 直子 委員

(欠席委員：高橋 裕介 委員)

(2) 事務局

保健福祉部長 野原 勝、健康国保課総括課長 竹澤 智、薬務担当課長 上山 昭、
主査 近藤 誠一、技師 千葉 航洋、技師 千葉 紀蘭理

4 会議の内容

(1) 開会

(2) あいさつ (野原保健福祉部長)

(3) 委員紹介

(4) 会長選出・副会長選出

委員の互選により、会長に小澤委員が、副会長に畑澤委員が、それぞれ選出された。

(5) 報告事項

岩手県の薬事行政の概要について (資料1)

[質疑応答]

Q1 (本間委員)

若年層の献血者数の減少について、若年層の人口減少も影響していると考えられるが、他にどのような原因が考えられるか。

A1 (事務局)

若年層の人口減少も影響しているが、それ以上に若年層の献血協力者数も減少しているため、若年層の献血率が年々低下している。

以前は、県内の全高等学校で高校献血を実施していたが、学校のカリキュラムの変化や献血に対する意識の変化等により、高校献血の実施数が減少していることも一因と考えられる。

Q2 (小澤委員)

薬物に関する問い合わせで向精神薬に関するものが多いが、どのような問い合わせがあるか。

A2 (事務局)

副作用に関するもの、乱用に関するもの、継続的に使用を続けることへの不安等に関するもの

などが多いと伺っている。

(6) 協議事項

地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局に係る認定事務並びに調査審議について（資料2及び資料3）

- ・調査審議について、原案のとおり承認された。

[質疑応答]

Q1（畑澤委員）

既に申請を受け付けている都道府県があるが、審査状況を伺ったところ、「認定基準適合表の適合状況の判断に、都道府県によってばらつきがあるのではないか」、との話があった。

健康サポート薬局の届出の際にも、判断のばらつきに関する同様の意見があったことから、今回の認定審査にあたっては、都道府県ごとにばらつきがないように審査いただきたい。

A1（事務局）

健康サポート薬局の届出に関しては、都道府県により多少の差があるのではないかと、この意見を頂戴していたところ。

地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局に係る認定にあたっては、審査に大きな差が生じないように、国と都道府県で制度開始前に複数回にわたって意見交換を実施しているところであり、今後も国及び都道府県と連携を密にして、一律の基準により適切な審査を行うよう努めていく。

Q2（畑澤委員）

オンライン服薬指導については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて昨年4月に国が発出した通知に基づき、現在は特例的な取扱いとして各薬局で対応している。

しかし、この特例的な取扱いを正しく理解していない方もおり、特例的な取扱いの条件に合致しないため薬局にオンライン服薬指導を断られた方から、クレームをいただくことがある。

この特例的な取扱いについて、薬剤師会から会員へ周知を行っているところであるが、県、保健所からも指導をお願いしたい。

A2（事務局）

関係課及び保健所とともに、必要な指導を行っていく。

Q3（小田中委員）

地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定申請は、いつから受付を実施するのか。

A3（事務局）

認定制度は本年8月から開始されるものであるが、本県では6月下旬から事前申請を受け付けており、これまで5件の申請があったところ。

Q4（本間委員）

地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定を受けることにより、調剤報酬の加算や患者の自己負担増などはあるか。

A4（事務局）

現在のところ、診療報酬の加算等はない。また、患者の自己負担増もない。

Q5（小澤委員）

専門医療機関連携薬局の傷病の区分は現在がんのみであるが、今後他の疾病についても対象が拡大していくのか。

A5（事務局）

制度開始時の対象疾病はがんのみであるが、今後他の疾病も対象になっていく可能性がある。

Q6（小澤委員）

専門医療機関連携薬局の認定要件に、学会認定等を受けた専門性を有する薬剤師があるが、日本医療薬学会が認定するがん専門薬剤師が該当するのか。また、がん専門薬剤師は県内に何名いるか。

A6（事務局）

日本医療薬学会が認定するがん専門薬剤師が該当するほか、専門医療機関連携薬局の認定要件に関する薬剤師の専門性の認定を行う団体として、新たに2団体が国へ届出を行ったところ。

なお、がん専門薬剤師は現在県内で3名程度と承知している。